「身に付けさせたい力」を明確にした小学校高学年の古典学習―『枕草子』―

小水亮子

はじめに

小学校の古典学習では「美しさや楽しさを、感覚的に味わう」ことが求められている。しかし、現状では古典学習というだけでつまずいてしまう、筆者のような小学校教員も少なくないだろう。それを乗り越え、古典学習の魅力や楽しさを感じながら実践を行いたい、というのが本稿のねらいである。

その一歩として、本稿では、学習指導要領や教科書から古典学習で「身に付けさせたい力」を探ることにした。それは、「身に付けさせたい力」を明確にして教育活動を行うことが、今、学校教育において大切にされている一つだからだ。そのことは、小学校国語科の指導要領[1]や、平成20年度の指導要領改訂に向けた中央審議会で出されている次のような資料[2]からも分かる。

現行学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識・技能」を徹底するとともに、「自ら学び自ら考える力」、「豊かな心」、「健やかな体」などの「生きる力」を育成することを目指している。現行学習指導要領の理念や目標を具体化するためには、そのための手立てとして、教科横断的に身に付けさせたい力と主な教育活動をより明確にしていく必要がある。

「身に付けさせたい力」を明らかにした上で、「美しさや楽しさを感覚的に味わうことのできる『枕草子』の授業」について考えたい。その際には神奈川県内の多くの学校が採択している[3]光村図書出版（以下、「光村」と略す。）を扱い、教科書についても検討していきたい。

一　学習指導要領に見る「身に付けさせたい力」

学習指導要領から「身に付けさせたい力」を探るため、国語科高学年の「伝統的な言語文化に関する事項」及び解説について確認する。まず、指導事項（ア）の内容は、

親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。[4]

である。言語活動は、「音読」中心で、教材に合わせて暗唱や群読など、読み方の工夫を行うことだと明確に書かれている。また、解説から捉えられる「身に付けさせたい力」に関わるものとして、①古文や漢文、近代以降の文語調の文章の、独特のリズム、長い年月を経て培われてきた美しい語調を知る。②美しさや楽しさを感覚的に味わう。③読んで楽しいもの自分を豊かにするものであることを実感する。という三点が考えられる。次に、指導事項（イ）の内容は、

古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。[5]

である。言語活動は、「古典を解説した文章を読むこと」や「鑑賞」と書かれている。また、解説から捉えられる「身に付けさせたい力」に関わるものとして、①昔の人のものの見方や感じ方を知り、現代人のものの見方や感じ方と比べる。②古典（言語文化）への興味・

関心を深める。という二点が考えられる。以上から、学習指導要領には言語活動は明確に書かれているが、「身に付けさせたい力」は曖昧であることが分かる。しかし、言葉のリズム、語調の美しさや楽しさ、昔の人のものの見方を感じ取る等といったことから、児童の言語感覚を高めることを目指していると言うことはできるだろう。

二　光村の教科書における『枕草子』

『『枕草子』で「身に付けさせたい力」を探るために、光村の教科書での取り上げ方を確認したい。ここでは、平成27年度に教科書の改訂が行われるので、『枕草子』の本文、現代語訳、単元の扱い方を視点に、改訂のポイントをまとめておきたい。

最初に本文である。（平成23年度版では「春」と「夏」、平成27年度版は全文が掲載されているが、比較するため「春」と「夏」のみを取り上げることとする。）

○平成23年度（底本　日本古典文学大系19岩波書店　一九五八年）

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。（※傍線は筆者）

○平成27年度版（底本不明）

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。（※傍線は筆者）

本文の変更点は「闇」が漢字表記かひらがな表記か程度である。配当漢字でないものにはルビをふっており、底本に近づけていると考えられる。次に、現代語訳である。

○平成23年度

春は明け方。だんだん白くなっていく山ぎわの空が、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜。月のころは言うまでもないが、月のないやみ夜でも、蛍がたくさん飛びかっているのはよい。ただ一ぴき二ひきと、かすかに光りながら飛んでいくのもおもむきがある。雨などが降るのもよいものだ。（※傍線は筆者）

○平成27年度版

春は明け方がよい。だんだん白くなっていく山ぎわの空が、少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいているのがよい。

夏は夜がよい。月のころは言うまでもないが、月のない闇夜でもやはり、蛍がたくさん飛びかっているのはよい。ただ一ぴき二ひきと、かすかに光りながら飛んでいくのも、しみじみとしてよい。雨などが降るのもよいものである。（※傍線は筆者）

平成23年度は一文目を「春は明け方」、平成27年度版は「春は明け方がよい」と訳している。また、平成23度版は「をかし」を「おもむきがある」、平成27年度は「しみじみとしてよい」と訳している。訳が変わることで受ける印象は多少変化するだろう。しかし、児童に言葉の意味を覚えさせる訳ではないので、言葉や内容に対する理解は、さほど変わらないと考える。

最後に、単元の扱い方を表にまとめて比較する。

年度	学年	指導時間	小単元	指導時期	本文の掲載	学習活動（言語活動）	解説文
平成23年度	5年生	2時間扱い	声に出して楽しもう 「今も昔も：竹取物語・枕草子・平家物語」	5月中旬	「春はあけぼの・・・」 「夏は夜・・・」 のみ掲載	「声に出して楽しもう」 古典や文語文と出会い、それらを音読したり暗唱したりすることを通して、日本の伝統文化にさらに親しみ、知識や愛着を深めていくことをねらいとしている	「枕草子」は物語ではありません。作者の清少納言が、心に感じたことを、自由に書き記しています。 みなさんも、夏の夜を飛びかう蛍の光に、美しさを感じたことはありませんか。
平成27年度	5年生	各1時間扱い	季節の言葉1～4 「春の空」「夏の夜」「秋の夕暮れ」「冬の朝」	「春の空」4月下旬 「夏の夜」7月下旬 「秋の夕暮れ」11月上旬 「冬の朝」2月中旬	「春はあけぼの・・・」 「夏は夜・・・」 「秋は夕暮れ・・・」 「冬は朝・・・」全文掲載	（仮）「昔の人の見方や感じ方を知り、自分が感じたことを書こう」 「枕草子」につづられている春の風景を参考に、あなたの感じる春らしいものや様子を、文章に書き表してみましょうとあるため、読んで感じたことを「書く」活動であることが予想される。	「枕草子」は、作者の清少納言が心に感じたことを自由に書き記した作品です。清少納言はこの作品の初めに、四つの季節それぞれについて、自分の思いをつづっています。

平成27年度版の改訂のポイントは、第一段全てを、季節ごとに掲載したことだろう。併せて、写真と「季節のことば」を掲載したことから、新しい語彙を獲得させたり、言葉への意識を高めたりすることをめざしているように感じられる。

三　各社指導書に見る「身に付けさせたい力」

引き続き、「『枕草子』で「身に付けさせたい力」」を探るために平成23年度版の各社指導書を確認する。指導書の内容は、本稿文末尾［資料①］にまとめ「身に付けさせたい力」を探る。

指導書から考えると、『枕草子』を取り上げるよさは、

①日本の「四季」に改めて目を向けられること。

②清少納言の独特な感性や感じ方を捉えられること。

③美しい語調や、歯切れのよい文章であること。

の三点にまとめられる。四季が題材のため、児童にとって身近に感じられるだろう。しかし、光村の平成23年度版は「春」と「夏」のみの掲載であった。そのため、四季に目を向けたり作者の感性を捉えたりできるとは言い難く、全文掲載になったと予想される。ただ、同一ページではなく季節に分けて掲載しているため、それぞれの季節の関連は捉えにくいだろう。

次に学習活動（言語活動）は、

①内容の大体を知るために「音読」する。

②古典を解説した文章を読む。

の二点が挙げられている。指導要領（ア）でも（イ）でも扱えるようになっている。

最後に「身に付けさせたい力」に関わるものとして、

①古典特有のリズムや美しい語調を味わい内容の大体を知る。
②昔の人のものの見方や考え方と、現代を比べることによる新しい発見する。

の二点が考えられる。つまり、教科書及び指導書も、指導要領と変わらず、言語感覚を高めるという点にとどまることが分かる。

四　先行研究に見る「身に付けさせたい力」

指導要領、教科書及び指導書から、「身に付けさせたい力」を探ってきたが、明確なものを見つけられたとはいえない。そこで、先行研究からもう少し掘り下げていく。

立命館小学校の加藤郁夫教諭は、古典が、態度主義・道徳主義である危うさを指摘し、自校の取り組みを紹介しながら、「古典学習で「身に付けさせたい力」について次のように述べている。[6]

私たちは「古典」を日本語教育（国語教育）という大きな枠組みの中でとらえている。現代語と無関係に古典に触れさせていけばよいのではない。『文学』『リテラシー』といった他の国語とつながりを大切にしながら、生徒の日本語（母語）の知識・能力を高め、論理的思考力・認識力を発達させていく、そのような関係性の中で「古典」をとらえている。（中略）現代日本語の力は古典を通しても鍛えられる。文語と口語は、切り離されたまったく別の言葉ではない。だからこそ、古典も子どもたちの日本語の力を鍛え育んでいくのである。（以下略）

加藤は「「古典」を日本語教育（国語教育）という大きな枠組みの中でとらえている。」とし、「日本語の知識・能力を高めること」や「古典も子どもたちの日本語の力を鍛え育んでいく」ものであることを述べている。つまり、古典教育は、児童の日本語の認識や言語感覚を高め、日本語の力を付ける学習であると考えられるだろう。

これまで、指導要領、教科書、指導書、先行研究から古典学習で「身に付けさせたい力」を探ってきた。それをまとめると、古典学習で「身に付けさせたい力」を、「古典を通して、児童の言葉に対する認識や言語感覚を高め、日本語の力を付けていくこと」と定義できるだろう。

五　言葉の認識や言語感覚を高める『枕草子』の授業実践

ここからは、「身に付けさせたい力」を、「古典を通して、児童の言葉に対する認識や言語感覚を高め、日本語の力を付けていくこと」と定義した上で、授業実践を行う。そして、実践や児童の反応から「身に付けさせたい力」、「美しさや楽しさを感覚的に味わうことのできる『枕草子』の授業」、平成27年度版教科書について検討したい。実践の概要及び展開は次の通りである。

［実践の概要］
・日時：平成27年2月5日、2月20日
・対象：横浜市立小学校5年2組（28人）
・単元：『枕草子』（「春」と「夏」は平成23年度版にて既習）
・配当：全二時間（1時間目「冬」、2時間目「夏」）
・使用した教材：平成27年度版の光村教科書を参考にして作成したワークシート［図①］
※一枚の用紙に『枕草子』を全文掲載してある。

図①　ワークシート

［一時間目の展開］

「春」と「夏」は既習内容であることと、学習を行う季節に合わせることを考え、「冬」を扱って授業を行った。

〈学習活動①〉『枕草子』の学習についての確認（5分）

『枕草子』の学習経験を確認した。児童からは「学習を覚えてない。」「教科書にはあったかもしれない。」という曖昧な反応が返ってきた。

〈学習活動②〉全文の音読（5分）

「やうやう」「なほ」「をかし」等の歴史的仮名遣いを正しく読めない児童が多数いた。読み方の確認をしながら音読した。

〈学習活動③〉本時のめあての確認（1分）

「冬」を音読し、「清少納言は冬の部分にどのようなことを書いたのか」という学習課題を提示した。

〈学習活動④〉書いてあることを予想する（10分）

「冬」に何が書いてあるのかを想像し、ワークシートに考えを書いた。児童は、「難しい。」「つとめてって何？」と戸惑っていたので、友達と一緒に考えてよいことを指示した。また、自ら国語辞典をひく児童もいた。

〈学習活動⑤〉考えたことの発表（15分）

児童の考えを板書でまとめた。絵を描いた児童については、テレビに投影して共有した。次のような考えが挙がった。

A児のワークシート

☆何が書いてあるか考えてみよう。
冬はやっぱり雪が降っていることは言わなくてもわかるだろう
霜の白さもまたものすごい寒さに、火などをおこして、炭も
手わたるも意味はない　昼になって火が消えていけば、ひおけ
の火も白い灰になってしまう。

〈学習活動⑥〉現代語訳（5分）

現代語訳提示はせず、話して伝えるだけにとどめた。（最終的には、「分からない言葉が多かった」という振り返りがあったため、次時に掲示した。）その中で、「なぜ炭をもって『渡る』なのか」という質問が出たので、それに対しては「長い廊下を通っていること」と授業者が解説を加えた。

〈学習活動⑦〉振り返り（5分）

一時間の学習から感じたことを自由に書く時間をとった。

C児：現代の「つとめる」や「つきづき」に慣れているから、昔の言葉の意味が全然分からなかった。
D児：自分が訳したのが現代語と全然ちがっておもしろかった。もっと古典を読んでみたくなったし、もっと意味を知りたいと思った。「つとめて」が早朝の事を指しているとは全く分からず、現代と昔の言い回しがちがうと知れてよかった。
E児：いつもふつうに読んでいるものについて深く考えるとおもしろかったけど、現代語に直すのはむずかしかった。特に「つきづきし」は、今は使わないし、聞かないからむずしかった。
F児：まだ知らない言葉がいっぱいある。「またさらでも」とか「つとめて」など現代の言葉とにているのに、意味がちがってむずかしかった。「ゆるびもていけば」はよく分からなかった。

［二時間目の展開］

当初は「冬」で理解した言葉を体感・実感する時間を予定していた。しかし、児童が既習内容（「春」「夏」）を忘れていたり、言葉を予想する活動に楽しさを感じていたりする様子だったので、もう一時間『枕草子』を扱った授業を行った。

〈学習活動①〉前時の確認と全文の音読（5分）

「冬」の原文と現代語を提示した。児童が気になる部分を中心に意味を確認し、その後、全員で音読した。

〈学習活動②〉本時のめあてを提示（1分）

「夏」を学習することになったため、本時のめあて「清少納言は夏の部分に何を書いているのか」を提示した。

〈学習活動③〉NHK「おはなしのくにクラシック」[7]を視聴（3分）

前時では、時代背景を知らずに絵を描いたり考えたりする児童が多かった。そのため、NHK「おはなしのくにクラシック」のscene01「千年以上前の物語」とscene10「身近にあった季節感」を視聴し、『枕草子』についての簡単な概要と清少納言について理解を促した。（［資料②］参照）

［資料②］
NHK「おはなしのくにクラシック」
scene01と10のあらすじ

Scene01
今から千年以上前の平安時代、とある貴族（きぞく）の女性（じょせい）が、今も語りつがれる物語を書きました。その人の名は、清少納言（せいしょうなごん）。自分のすきなことやきらいなこと、職場（しょくば）で体験したことなどを、こっそりつづっていたのが『枕草子（まくらのそうし）』です。

Scene10 清少納言がくらした「寝殿（しんでん）造（づく）り」という、当時の住まいは、なんと、かべがほとんどなかったのだそうです。だから、春の夜明けや冬の寒さを今よりもっと身近に感じる生活でした。当時の人は、季節（きせつ）のうつろいを敏感（びんかん）に楽しんでいたのでしょう。もう一度朗読（ろうどく）だけを聞いてみましょう。清少納言が千年前に感じたことが、みんなの心にもとどくはずです。

〈学習活動④〉書いてあることを予想する（10分）

考えたことをワークシートに書いた。前時との変化は、他の季節と比較する児童が出てきたことである。例えば、「「わろし」と「をかし」は言い回しが似ているから反対語かもしれない。」や、「「秋」の文脈を考えると「をかし」は「おかしい」という意味ではなさそうだ。」等と考えていた。

〈学習活動⑤〉考えたことの発表（15分）

一時間目と同じ児童の考えである。A児は「冬」の学習を基に「夏は夜がよい」と「よい」を足した。また、B児は映像を視聴した結果、一時間目の現代風の絵から、古典を意識した絵に変化した。

A児のワークシート

☆何が書いてあるか考えてみよう。

夏は夜が良い月が出ているとさらに良い
暗いのも蛍が飛んでいてもとても良く、また、ただ
一つ、二つだけほのかに光り、変な方向にいくのはおかしい
雨がふるのもおかしい

〈学習活動⑥〉現代語訳を伝える（５分）

現代語訳を提示し、ＮＨＫ「おはなしのくにクラシック」の朗読を視聴した。『枕草子』に書かれている言葉とその情景がつながった様子だった。

〈学習活動⑦〉振り返り（５分）

一時間目と同じ児童の振り返りを取り上げる。

C児：最後ビデオを見て、難しいところの意味がよく分かった。「をかし」「わろし」が反対なのも分かった。
D児：「さらなり」が言うまでもなくというのは、言い回しが全然違って分からなかった。「をかし」は、秋を読んでみて「よい」かな、と思ったけど、ぱっと見た時は「おかしい」だと思った。この授業を機にもっと古典を読んでみようと思った。
E児：今日は「をかし」に苦戦した。けど意味が分かってすっきりしたし、映像と一緒に見ると清少納言の感じていたことがよく分かったので、ぼくのお気に入りは「夏」です。
F児：昔の人と今の人の考えは全然違うと思ったけど、考え方がにていることが分かった。前回やっていた冬とにていたり、反対だったりするところもあった。

六　授業に対するアンケートの結果

学習後、『枕草子』の授業についてアンケートをとった。アンケートに回答したのは、授業を行った五年生同学級である。

①『枕草子』の学習はおもしろかったですか［グラフ①］

とてもおもしろかった（22人）、おもしろかった（５人）、あまりおもしろくなかった（１人）全くおもしろくなかったは（０人）だった。概ね前向きな捉え方をしている。

②　①と答えた理由

〈言葉について〉

・昔の言葉を現代語に直したり、分からない言葉が分かたりしておもしろかった（９人）
・言い回しや言葉が今と違っておもしろかった（７人）

〈清少納言・枕草子について〉

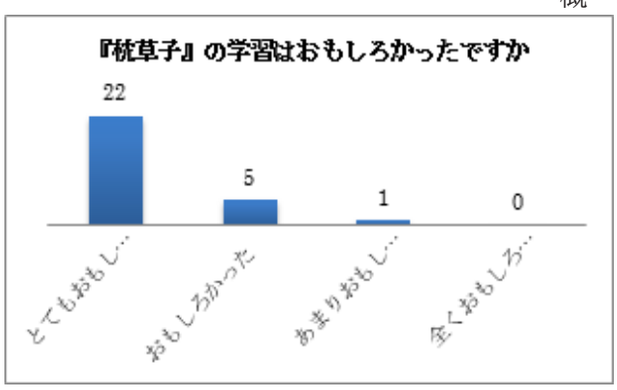
・昔のことが分かり、「枕草子」が知りたくなった（２人）
・清少納言がしたことが分かってよかった

〈学習活動〉

・考えを絵で表したり、意見を発表したりしたことがよかった（３人）

〈『枕草子』自体〉

・季節を感じる表現が素敵
・季節ごとに文の意味が違っておもしろいなと思った



グラフ①　『枕草子』の学習はおもしろかったですか

〈難しかったこと・その他〉

・昔の言葉で難しかった

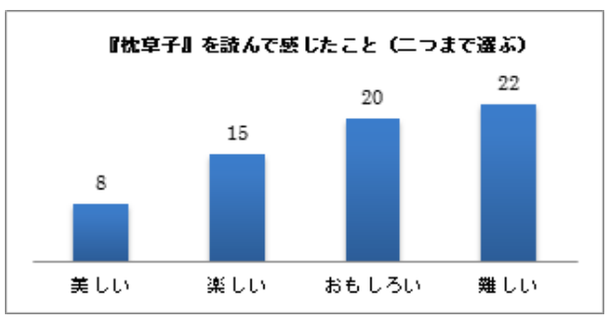
・古典は苦手

『枕草子』の言葉や表現に対興味が伺える。また、歴史に興味を示す児童もいた。

③『枕草子』を読んで感じたことに近いものを選んでください。［グラフ②］

美しい（8人）、楽しい（15人）、おもしろい（20人）、難しい（22人）

①の結果と合わせて考えると、『枕草子』で使われている言葉を考えることにおもしろさを感じていると分かる。



グラフ②　『枕草子』を読んで感じたことに近いものを選んでください（二つまで選ぶ）

④　学習でよかったと感じた活動は何ですか［グラフ③］

音読（8人）、原文から予想する活動（16人）、現代語訳を知る（11人）、清少納言や枕草子等歴史背景について知る（7人）、原文を表現した映像を見る（4人）であった。選択肢の中で原文を予想する活動と現代語訳を知る活動を重複して選ぶ児童が8人いた。この結果から、児童は分からない言葉について考えたことや、『枕草子』の内容が分かった時に、楽しさを感じていたと言える。

⑤　④と答えた理由

A：音読

・音読すると内容が分かりやすい、流れが分かる（6人）

・違う読み方（歴史的仮名遣い）に気付けた（3人）

B：原文から予想する

・自分が想像したことを絵や文にするのが楽しい（6人）

・話し合い、考えの違いに気付けるとおもしろい（3人）

・どんなことが書かれているか考えるのが楽しい（3人）

・自分なりに訳すのが楽しい（これが古典のよさだと思う）

・想像して分からなくても、最後に分かると気持ちがいい

C：現代語を知る

・現代語を知ると書いてある内容が分かる（5人）

・今と昔の違いに気付ける（4人）

・昔の言葉が理解できる（3人）

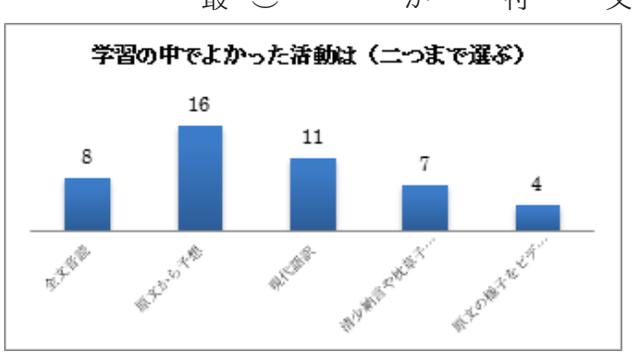
D：歴史背景をビデオで見る

・ビデオから時代や清少納言の様子が分かる（5人）

E：原文を表現した映像を見る

・ビデオの解説で、何が書かれているかよく分かる（4人）

・場面を想像できるようになる（2人）



グラフ③　学習の中でよかったと感じた活動は何ですか（二つまで選ぶ）

七　「身に付けさせたい力」についての考察と検討

アンケート結果と児童の振り返りを基に、「身に付けさせたい力」について考察していく。まず、アンケート②『枕草子』の学習はお

もしろかったですか、の理由に次のようなものがあった。

・昔の言葉を現代語に直すのがおもしろかったし、分からないことが分かっておもしろかった（９人）

・言い回しや言葉が今と違っておもしろかった（７人）

・季節を感じる表現が素敵だから

また、アンケート④学習の中でよかった活動はなんですかの結果では、原文を予想する活動と、現代語訳を知る活動を重複して選ぶ児童が多くいた。さらに、一回目と二回目の変容が捉えやすいＣ児とＥ児の振り返りに着目する。

Ｃ児：現代の「つとめる」や「つきづき」などに慣れてしまっているから、昔の言葉の意味が全然わからなかった。

Ｃ児：最後ビデオを見て、難しいところの意味がよく分かった。「をかし」「わろし」が反対なのも分かった。

Ｃ児は、一回目の分からない、という振り返りから、二回目には理解した言葉を述べられるようになっている。それを、「ビデオを見ることで分かった。」と書いている。次に、Ｅ児に着目したい。

Ｅ児：いつもふつうに読んでいるものについて深く考えるとおもしろかったけど、現代語に直すのはむずかしかった。特に「つきづきし」が今はあまり使わないし、聞かないからむずしかった。

Ｅ児：今日は「をかし」に苦戦した。けど意味が分かってすっきりしたし、映像と一緒に見ると清少納言の感じていたことがよく分かったので、ぼくのお気に入りは「夏」です。

Ｅ児は、深く考えることのおもしろさや『枕草子』の内容が理解できた時の楽しさを具体的に書いている。また、映像とつなげることで内容が理解できたと述べ、「冬」の学習と比較して「夏」が好きだと書いている。

ここから、言葉について考えることや、言葉の意味を知って『枕草子』の内容が理解できることに楽しさを感じる児童が多いと分かった。それは、新たな言葉を獲得したり、言語感覚を高めたりすることにつながると言えるだろう。さらに、言葉の確実な定着をはかるためには、映像や歴史、現代語訳との関係づけ・比較等の授業者の手立てが有効だと分かった。

以上から、古典学習を通して、児童の言葉に対する認識や言語感覚を高めることは十分にねらっていけると考えた。また、より確かな言葉の定着をはかるためには、映像を活用したり歴史的背景を提示したりする等の授業者の手立てが必要だと分かった。

八　平成27年度版教科書についての考察と検討

続けて、アンケート結果と児童の振り返りを基に、平成27年度版教科書について検討していく。前述したように、改訂のポイントとして考えらえるのは次の二点である。

①第一段を季節に分けて全文掲載したこと

②小単元扱いにし、写真と季節のことばを掲載したこと

まず、第一段を季節に分けて全文掲載したことについて考えるため、Ｄ児とＦ児の二回目の振り返りに着目したい。

D児：「さらなり」が言うまでもなくというのは、言い回しが全然違って分からなかった。「をかし」は、秋を読んでみて「よい」かな、と思ったけど、ぱっと見たときは「おかしい」だと思った。この授業を機にもっと詩を読んでみようと思った。

F児：昔の人と今の人の考えは全然違うと思ったけど、考え方がにていることが分かった。前回やっていた冬とにていたり、反対だったりするところもあった。

D児とF児は他の季節と比較して考えていることが特徴的である。これがもし、平成23年度版のまま「春」「夏」のみの掲載であれば比較して考えられなかった。ここから、全文掲載は必要だと言える。また、児童が比較して考えた理由は、授業を繰り返し行った結果だと考えられる。平成27年度版では『枕草子』が季節ごとに掲載されているので、繰り返し学習できるよさがある。一方で、全文が同時に掲載されていないため、同学級の児童のように既習内容を忘れたり、E児が行ったような未習の季節と比較したりすることはしにくくなるだろう。

続けて、小単元扱いにし、写真と季節のことばを掲載したことについて検討する。前述した通り、写真や映像はイメージを明確にし、児童の言葉への認識や言語感覚を高めるために有効な手段だと言える。しかし、教科書に掲載されている写真では場面を十分に表しているとは言い難い。なぜなら『枕草子』の場面変化に対応していないからである。例えば「冬」は、朝から昼へ場面が変化しているが、教科書には一部分を切り取った写真しか提示されていない。すると児童は、その写真だけで『冬』の全てを表しているように捉える可能性があるだろう。また、写真や映像はイメージを固定化すると考えられる。それは、B児の絵の変化を見ると明らかである。B児は、一時間目に人物が帽子やマフラーを身に付けている様子を描いたが、二時間目は着物を着た髪の長い女性が蛍を見ている絵を描いている。（「資料③」参照）このB児の変化は、NHK「おはなしのくにクラシック」視聴の影響で、それによって『枕草子』の理解を深めたという手立ての有効性として捉えることができる。しかし見方を変えると、B児は、一時間目では『枕草子』の内容を自分に引き寄せて自由に発想を膨らませたが、二時間目は映像によってイメージが固定化され、それに合わせて絵を描いたと考えることもできるのである。写真や映像が児童に働きかける力は大きい。そのため、授業者が何をねらうかを考えた上で活用することが大切である。

また、平成27年度版教科書では季節に関連する言葉を載せているが、児童には『枕草子』の世界を十分味わわせるべきだろう。それは、アンケート③の学習の中で、よかったと感じた活動は何ですか、の「原文から予想する」や「現代語訳を知る」を選ぶ児童の多さからも伺える。この単元で『枕草子』に出てこない語彙を獲得させるより、清少納言が表した世界を丁寧に考えていく方がよいだろう。

おわりに

ここまで、「身に付けさせたい力」を明確にした高学年の古典学習の展開について考えてきた。実践に対するアンケートや振り返りの考察から、児童にとって古典は「難しいけれど、言葉について考えたり、内容を理解したりできる楽しさがある」ものだと分かった。

また、実践の中で見られる児童の様子も、想像力豊かに言葉を受け止め、思考を働かせながら『枕草子』の内容を捉えようとしていた。そういった姿が「美しさや楽しさを、感覚的に味わう」ことであり、言葉への認識や言語感覚を高めることにつながるだろう。

しかしこれが、古語の意味を覚えるだけの学習になってしまったらどうだろう。「昔の言葉は意味がわからない。覚えるのは大変だし難しい。だから古典は好きになれない。」という思いになってしまうのではないだろうか。今後は、5年生の児童が感じた思いを大切に、言葉や表現から古典文学作品の内容を考えたり理解したりする中で、「美しさや楽しさを、感覚的に味わう学習」を展開していきたい。本稿での考察をもとに、古典学習の実践を行っていきたいと考えている。

注

（1）文部科学省著『小学校国語科指導要領解説編』（東洋館出版 二〇〇八 一五頁）の各学年の目標には、「第1学年及び第2学年の読むことに「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」第3学年及び第4学年の書くことに「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」第5学年及び第6学年の書くことに「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」」と書かれているように、身に付けさせたい力は、国語科の指導要領の中に繰り返し使われている。（※傍線は筆者）

（2）文部科学省中央審議会初等中等教育分科会教育課程部会教育課程企画特別部会第十四回「教科横断的に身に付けさせたい力に関する論点例」（資料4）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/016/siryo/06091412/001.htm（最終アクセス 2015/02/23）

（3）神奈川県内の公立小学校では光村が91.3％のシェアである。伊勢原・平塚の一地区が、東京書籍を採択している。また、横浜市内の小学校は100％光村を採択している。神奈川県教科書採択一覧表 http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6670/（最終アクセス 2015/02/23）

（4）文部科学省著『小学校国語科指導要領解説編』（東洋館出版 2008）

（5）同4

（6）加藤郁夫著「全国大学国語教育学会発表要旨集 116」http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AA11418056/ISS0000441059_ja.html（最終アクセス 2015/02/23）

（7）NHK for school おはなしのくにクラシック［2014年度 第1回］枕草子（清少納言）http://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005150081_00000（最終アクセス 2015/02/23）

横浜国立大学大学院修士課程、横浜市立戸部小学校教諭
（こみず・りょうこ）